

特集

「造本とブックデザインと。」

—— 紙の本を諦めるな！

少し前の日本も、そしていま現在の海外も、もっともっと面白い造本がいっぱいだ。

紙の本は「売れなくなった」とよく言われます。確かに、紙が最新メディアだった昔と比べると、書籍の役割は減ったのかもしれませんが。でもそんななかだからこそ、せつかく紙の本として世に出すのなら、もっといい形でつくられるべきではないでしょうか。本特集では、明治から昭和初期頃にかけてつくられた、いま見るとひっくり返ってしまうようなすごい造本の書籍 40 冊以上の紹介をはじめ、いま現在の日本と海外のすばらしい造本の書籍を多数紹介。そしていつも読者から「なんだこれはっ!」「変態だ!」と言われている本誌造本についても、今回はアイデア出しのところからテスト制作、最終案までしっかりレポート。ブックデザイン・造本について、本づくりに携わるすべての人に刺激を与える大特集です。

明治～昭和初期の「すごい造本」をドンと紹介! 海外のすごい本も!

日本の洋式製本は、明治初年に始まりました。その後、製本工程の機械化が進むのは昭和40年代のこと。しかし製本機械が十分に整わない時期にも、奇抜な素材を用いたり、趣向を凝らした、いま見るとひっくり返ってしまうようなすごい造本はたくさん生まれていました。本特集では、そうした日本の先達たちが手がけたすごい造本 40 冊以上の紹介を皮切りに、現代の日本のすごい造本の数々、そして海外のすごい造本も多数紹介。見ているだけでも楽しく、また、本づくりに役立つヒントが満載です。



本物の竹と笥の皮を使った造本



ミノムシの蓑(!)を貼り合わせた本

ブックデザイナー 2大対談! 鈴木成一×祖父江慎 水戸部功×名久井直子

ブックデザイナーとして 30 年以上活躍し、いまの日本のブックデザインを語るうえで欠かせない存在である 2 大巨匠、鈴木成一さんと祖父江慎さんの史上初対談を実現。また、若手世代でいまもっとも編集者から指名されるブックデザイナーだと言っても過言ではない、水戸部功さんと名久井直子さんの対談も収録し、同世代の 2 組のブックデザイナーが装丁・造本についてどんなことを考えているのかをお聞きしました。さらに、いま注目の 5 人のブックデザイナーや、オランダのブックデザイナーイルマ・ボームのインタビューなど、読み物も充実です。

